



行事予定表	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

一番寒い時期に、夏日。子ども達に追いかけてTシャツ一枚でも汗ばんでしまった。気候変動がここまでできたか。誰も「何だかおかしい」と言わなくなるほど、当たり前前の地球沸騰化。ウクライナ、ガザ侵略、元KGBと元軍人が、虐殺を止めない地球、もしトラになったら、さらに悲惨になる。

そんな地球の中で、感動の発表会が終わった。心が洗われ、あったかくなった歌があった。

「花も虫もゴリラも・・・みんな地球に生きている仲間なんだ、兄弟さ。地球はみんなのものなんだ」（地球は、みんなのものなんだ）人間だけのものじゃない、人間が破壊してはいけないのだ。

「世界のみんなが手をつないだら、すぐに大好きになって・・・友達なんだ。」（手をつなごう）隣国侵略、自国第一主義。隣同士、手を繋いで仲良くするのが、政治家・国のリーダーのはず。子ども達の未来が、希望にあふれ、楽しく輝くことを、祈らずにはいられない。

もう半月もすれば、年長児は卒園。そしてみんな一つ大きく成長し進級します。一年のご協力ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひします。



今月の予定の中から

- 交通安全教室（4日）
・今回は就学を控えた5歳児が、牛久第二小学校までの道のりを教員の方と歩いてみます。
- カレーの日自由参観（5日）
・今月も、ぞうグループの子ども達が、野菜切りや釜戸係をしている様子をおうちの方々に見て頂きます。
- 入園説明会（7日）
・来年度入園予定の方の入園説明会が13時半からあります。16時過ぎまで駐車場が混み合うと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。
- お別れ遠足（13日）
・ぞうグループの子どもたちが刈谷第一公園までお別れ遠足に出掛けます。お弁当を持ち、公園で沢山遊んで楽しんでできます。どうか晴れますように！
- おべんとうデー（13日）
・今年最後のおべんとうデー。子ども達の大好きなお弁当作りをどうぞよろしくお願ひします。1年間ありがとうございました。
- 誕生会（14日）
・3月生まれの子ども達の待ちに待った誕生会。みんなで、「おたんじょうびおめでとー！」を気持ちを込めて伝えたいですね。



●お別れ会・お別れランチ（19日）

・4歳児が会の進行をし、5歳児とのお別れ会を行います。小さい子ども達も、心のこもったプレゼントをします。午後は卒非常勤職員とお別れの時間を設けます。

●卒園式（23日）

・今年は38名の子ども達が卒園します。年長児そして、年長児保護者のみの厳かな式となります。詳細は後日お知らせ致します。

☆お知らせ

☆今年度も、保護者会費から保育室の加湿器やたくさん絵本、卒園児の方から、プリンターを頂きました。大切に活用させて頂きます。

☆先月より保育補助として谷田輝子さんが勤務しています。どうぞよろしくお願ひします。

☆令和6年度日程についてのお知らせ

*入園式は4/6（土）9時半開始です。

・新入園児のみの参加です。当日の土曜保育は行いません。（進級写真を4月に撮影します。）

*令和6年度保護者会総会は、書面決議で行う事を役員会で決定致しました。4月・5月に保育参観を行う予定です。

文字や数への興味・関心



お正月が過ぎ、小学校入学を控える頃になると、「うちの子は、まだ、文字が書けない」と、焦りを感じる人が出てきます。文字や数に対する理解は、個人差が大きいために無理もないことだと思えます。文字を学ぶのに適当な時期も、個人差があります。6歳か6歳半に達してからでも遅くないと言われています。幼児期には、統一的に学習させるのは、適当でないと思えます。小学校に入ってからでも遅くないでしょう。入学時に、自分の名前が読めて、書ける、それだけで良いでしょう。▼しかし、この時期にふさわしい生活があります。絵本の読み聞かせや、お話をすることで言葉を知ること、イマジネーションを育てることです。（但し、絵本の世界を楽しむだけにして下さい。決して質

問したり、文字を無理に覚えさせたりしないでください。）日常生活の中で、必要な記号を覚

えるとか、標識を知る、あるいは文字を書けなくとも、おじいちゃん、おばあちゃんに便りを送るといことは、文字という抽象的な印を学ぶ前段階として大切なことです。そこから、自分の名前を表す記号として、「やまだたろう」と言うのが自分の名前を表すものだから、木のプレート表示に何が書いてあるか、といった興味に近づけていきたいものです。▼また、数を唱えるだけでは、数を理解しているとは限りません。実際に、物をひとつずつ数えながら並べたり、対応させて、数を比べ、どちらが多いか体験するなど、数と量の具体的な場面で、具体的な経験をさせることにより、よりはっきりと理解できるようになります。幼稚園でも、グループの人数を数え、対応させて、数を比べたり、お知らせを配る時に、人数分だけ取って配ったり、日常生活の中で、物や人と対応していくようにしています。▼お子様一人ひとり、成長・発達の仕方が違います。文字や数を子供に押しつけず、生活の中で、興味・関心を引き出す工夫はしても、焦らず、ゆつくりと見守ってあげようにして頂きたいと思えます。▼そうは言っても、小学校から受験など、私の時代では、考えられない現象がおこっています。そんなに早くから競争させて、子ども達は大丈夫なのかと心配です。しかし、最近では、新しい潮流が少しずつ起きています。難関校を出ても、安定した企業などないほど、社会が急激に変化する時代に、求められるのは、偏差値より柔軟な思考力、個性、多様性です。大学、高校も、一般入試より、推薦、総合選抜での合格の方が多くなっています。学習内容も、暗記、計算より「探求学習」に比重が大きくなっています。自由に、伸び伸びと生活する中で、自分で考え、決断し、自分で行動し、体験する事が大切です。

